

「日本アニメの英語版字幕における翻訳問題」

前川 ルーク真

本論文は、日本アニメの英語版字幕における翻訳問題について、言語的差異のみならず、文化的・宗教的・社会的背景および言語体系の違いを含めた観点から分析し、字幕翻訳において生じる「意識」と「喪失」の構造的特性を明らかにすることを目的とした研究である。日本アニメは国際的に高い評価を受け、多様な文化圏で視聴されているが、その受容過程において重要な役割を果たす字幕翻訳が、原言語の意味や文化的背景をどのように再構成しているのかについては、十分に整理されていない。本研究は、この点に着目し、日本アニメの英語版字幕を対象として、翻訳過程に内在する問題を体系的に検討した。

第1章では、研究背景として、日本アニメの国際的流通拡大と字幕翻訳の重要性を概観し、先行研究の整理を行った。従来の翻訳研究では、意味の等価性や語彙対応に重点が置かれる傾向があり、文化的前提や社会的文脈が翻訳過程でどのように処理されているかについては十分に検証されてこなかった。これを踏まえ、本研究では、「日本アニメの英語版字幕において、どのような要素が意識され、または喪失されているのか」「それらは翻訳者の個別判断によるものか、あるいは翻訳行為に内在する必然的現象なのか」というリサーチクエッションを設定した。研究方法としては、日本アニメ作品を分析対象とし、日本語原文と英語字幕を比較する質的分析、具体的にはマルチモーダル分析を採用した。

第2章では、日本アニメの英語字幕において生じる意識および喪失の具体例を、二つの観点から分析した。

第一に、日本の文化、宗教観、風習、社会制度、歴史的・地理的背景といった文化的要素が、英語字幕においてどのように表象されているかを検討した。日本語の挨拶表現や定型句は、人間関係の維持や社会的調和を重視する機能を持つが、英語字幕では、感謝や挨拶といった機能的意味に集約される傾向が確認された。この過程において、原文が前提としていた文化的・社会的文脈は十分に再現されない場合が多い。また、日本独自の宗教観や死生観、共同体意識についても、英語字幕では一般化された表現へと置き換えられ、文化固有の思考様式が簡略化される傾向が見られた。

第二に、日本語独自の言語体系に関する分析として、漢字の訓読み・音読みや名前の表記、呼称表現、擬音語・擬態語、短歌や俳句などの和歌表現、修辞法、方言や言葉遊び、語尾による文末表現を取り上げた。これらの表現は、日本語の音韻構造、文脈依存性、歴史的背景と密接に関係しており、英語字幕において形式的に対応させることは困難である。その結果、翻訳者は、意味内容や物語進行上の機能を優先した意識を行う一方で、日本語特有の響きやニュアンス、美的要素は喪失される傾向があることが明らかとなった。

第3章では、以上の分析結果を踏まえ、日本アニメの英語版字幕における意識と喪失が、翻訳者の恣意的判断や能力の不足によって生じる現象ではなく、日本語と英語の言語構造の差異、文化的前提の非共有性、ならびに字幕翻訳という媒体特有の文字数・表示時間の制約という複数の条件が重なり合うことで必然的に生起する、翻訳行為に内在した構造的現象であることを論じた。字幕翻訳では、説明的補足や注釈を加えることが困難であるため、翻訳者は情報の選択と圧縮を行わざるを得ず、その結果、文化的背景に関する情報の喪失が生じやすい。

本研究の結論として、意識と喪失は翻訳の成功・失敗を分ける対立概念ではなく、同一の翻訳過程において相互に補完し合いながら同時に生じる現象であり、翻訳の成立条件そのものであると位置づけた。翻訳者は、原文の形式的再現が困難な場合においても、原文が担っていた意味的・感情的・社会的機能を、受け手の文化に即した表現によって再構築することで、作品の理解可能性を確保している。

本論文は、日本アニメの英語字幕翻訳を事例として、翻訳を単なる言語変換作業ではなく、文化的差異を前提とした意味の再構成過程として捉えた点に特徴がある。翻訳における意識と喪失を構造的現象として整理することにより、字幕翻訳が持つ制約と可能性を理論的に示した。本研究の知見は、日本アニメに限らず、他言語間の字幕翻訳や映像翻訳研究全般においても応用可能であり、翻訳研究における文化的視点の重要性を示すものと捉える。